令和７年２月 10 日（月）14:00～16:00
場所　裾野高校　会議室

令和６年度静岡県立裾野高等学校第４回学校運営協議会議事録

出席者
学校運営協議会委員
委員長　高橋智浩委員（裾野市社会福祉協議会）
委　員　山本睦委員（常葉大学保育学部教授）　志田忠弘委員（ＮＰＯ法人理事）　杉村千鶴委員（ＰＴＡ会長）
学校側
田代校長、大石副校長、芹沢教頭、塩谷教務主任、岡部総合学科キャリア広報推進室長、川口総務・図書課長、野村生徒指導主事、室伏進路指導主事、木村保健・相談課長

１　開会
２　校長あいさつ
校長： 10 月に創立 120 周年記念式典に無事に実施された。普段の生活では、新学習指導要領が今年で三年生まで全部揃った。一人１台情報端末が三年生まで揃ったところで新しい授業の仕方がどの学年でも行われるようになった。昨年度と比べ生徒指導の数も減り、遅刻や早退・欠席の数も昨年度に比べれば減ってきている印象である。一年間、無事とは言い難いが、昨年よりは少しは暮らしやすい学校になったと思う
３　議事
(1) 教育活動年度末報告について
各分掌長から成果目標に対する達成状況、自己評価、成果と課題について説明がなされた。
(2) 質疑
山本委員：学習意欲の向上と基本的生活習慣の確立ですが、どちらも家庭教育への介入が必須になると思う。その家庭教育に対してどのようにアプローチするのか。
塩谷：家庭への直接的な呼びかけは、学習面ではそれほどない。きちんと学校に来るとか、提出物を出すとか基本的な学習習慣に関しては、電話やお会いした時に話をするなどの形は取っている。学校全体で大きく変えていこうというのは、不十分なところがあり難しいところです。
山本委員：家庭と教師との関係は見直されてきている。保護者が大学卒の人が当たり前になっている。保護者対応を助けることで先生方の業務負担も減ると思うが、その辺を考えていく必要があると思う。
校長：昨年度からＣラーニングを導入し、欠席連絡をスマートフォン等でできるように

なった。それまでは朝登校していない生徒に対して電話で職員が膨大な数連絡し確認を取っており、担任も副担任も疲弊してしまうような状況であった。C ラーニングを導入したことで、少しは解消されたような気がする。また、高校の校長協会で教育に対してのリスペクトする活動を始めており、「教育へのリスペクト」という歌を本県の教育委員会のホームページにバナーを貼って広報し、できる限り学校を信頼してもらい、学校に対して相談してもらいたいと考えている。
志田委員：一年生の探究のスキル獲得の達成率どうか。
岡部：一年生が行っているシズクリのプログラムはグループワークのような形でやっている。授業等での活用が学校の中にあれば、おそらく探究スキルが身に付いて行ったということになる。その上で私の主観でお話しすると、生徒たちが、もう小・中学校でこういった活動は先取りしてやってきてるので、一回やってみるとあぁそれねっていってできる生徒数と機会は増えてきたなと思う。そういう印象である。
志田委員：二年生で具体的に動けるか、一年間でできているか気になる。
岡部：去年の活動が今年の活動にものすごく活きているという風に感じる生徒も少なくない。そういう生徒がグループの中に必ず一人二人が入っているので、そこに感化されていって少しづつ良くなっているという印象がこの一年間でもあった。
杉村委員：来年度三年生の「20 年後の未来予想」というかたちで詰めていくということだが、うまく進めずに寄り道をしてもいいとなった場合の話も授業はするのか。
岡部：20 年後がどのようになっているというのは誰も分からないから、そこになってさあどうしようではなく、自分がこうなっていたいと思い主体的な意思を持って物事を考えていくことが大切だと考えている。世の中がこうなっているはずだから、自分は絶対こうやって就職するべきというような思いではない。考えなしに短絡的にはならないようという思いはあります。「分からないし、失敗してもいいんだよ。」という言葉掛けはあまり考えておらず、しっかりと先を見ようということである。
志田委員：五龍祭文化の部の、具体的な日程は決まっているのか。
野村：11 月の 1 日土曜日が一般公開。その前日 10 月 31 日が校内発表の２日間の日程である。
志田委員：図書の貸し出しが年間５冊という目標だが、図書館の利用をどのように捉えているのか。
川口：図書館が別館にあるため行きにくく、放課後とか昼休みなど一部の時間に限られているので、図書館で勉強したり本を読んだりしにくい。そこで、昨年から図書委員が図書館にある本 10～15 冊ぐらいを各教室に学級文庫として持って行っている。PTA からお金をいただいて毎月十数冊本を買っている。生徒から図書館に入れて欲しい本の希望があるが、その希望を図書館から学校に申請して買ってくるまで 1 ヶ月から 1 ヶ月半掛かってしまうため、すぐに読みたい生徒は自分で買っていることが多いことを今回のアンケートで知った。来年度はアンケートに、どんな本をどこで購入しているか入れよう

と考えている。学校だけでなく、とにかく本に触れるということを大きな目標としてやってきたい。
山本委員：教職員のワークライフバランスについて、多忙期を除いてはできたというのがすごく多いが、実際のところはどれぐらいの時間外勤務になっているのか。改善の方法はどのように考えられているのか。
副校長：高校総体の時期を除けば概ねできた。月曜日を定時退勤日としている。土日に部活動があるので、早く帰ることを意識するようにするためである。午後８時完全退勤については、できた日もあれば難しかった日もある。部活動顧問の半数以上は時間外勤務が月 30 時間以上である。月 45 時間を毎月超えている職員が５名ぐらいいる。
山本委員：小中学校とかでは部活動の顧問を学外の人に移行するという動きがあるが、高校はどうか。
校長：まだ具体的に動いていない。小中学校は、令和八年度で実施できるよう計画しているようだが、それを見た上で多分動くのであろうと思う。実際の指導できる方が。それだけいるかというのは我々の方の話題になっている。
山本委員：運動系の部活動だとどのくらいのレベルかというところも大事だと思うので、学外の指導者も職業に近いレベルで考えてやらなければいけないところとそうでないところがあると思う。
校長：高校の部活動でいうと学校を代表するような活動をする部活動もあるし、自分たちでこれぐらいやればいいという部活動のもあり、学校によっても違う。指導する方は昼は特に必要なく、午後 4 時以降、土曜日、日曜日に必要になるということになるので、別の主な仕事を持ったうえで外部指導をするという形が多くなる。学生さんだと自分の生活に加えて外部指導になるので辛いのではないかと思う。
山本委員：教育の意識がすごく大事になると思う。教育学部では教員採用試験を受けなくなっているという話がある。免許を持っていても受けない。その実態がうまくニーズと合ってくれればいいと思っている。マッチング策をこの学校だけじゃなく広く考えないと先生方も大変である。土日も試合だったりするので続かないと思う。教職員のワークライフバランスに関しては力を入れていかないと辞めたり休職の先生が出てしまい大変なことになる。とても大切なことだが、家庭生活と両立できているか。
塩谷：力を抜けるところは正直抜いている。部活動は生徒の良い経験というか成長を促す良い場面なので、それが学校にあるべきなのか地域にあるべきなのかなんとも言えない。地域にずっとあればその文化が残るが、競技人口がものすごく減ってしまう場合文化がなくなるのかなと思う。
山本委員：家事は分担されていますか。
塩谷：はい。
校長：今ここに超えている人が 3 人います。
岡部：超えてますけど順調です。

山本委員：家庭生活で何か工夫していることはありますか。
岡部：いつも、ありがとうと声を掛けています。
山本委員：それは、とても素晴らしいことだ。時間を作り出すための工夫をしているか。
岡部：今複数で顧問をおいているので、その顧問同士で連携を取り、今日早く帰るよとか、今日こういうことがあるよとか、今はすごくやりやすい環境で部活動指導をしている。
山本委員：先生方は自分のお子さんの学校行事で行っているか。
岡部：行っている。
山本委員：良かった。保育者は殆ど行けないので。
髙橋委員長：学校の部活動について中学校では、外部の講師を入れるという話が出ています。高校はっていう話が出ます。私が知っている先輩が公立高校のある程度のレベルにある野球部の監督を頼まれ、学校が終わる４時くらいから本業を休んだりして指導していたが、甲子園を目指していることからプレッシャーがあって疲弊してしまう。実際に、高校生レベルだとしたら体格的について行けないような気もするもので難しいと思う。文化部での外部の講師は比較的できたるのかなぁと思う。ある程度年配の人でも知識を持っているかもしれないので移行していくことが可能だと思う。また、外部の講師の方は上部の大会に行くと参加資格にスポーツ指導者が必要になるかもしれない。移行したとしても、いろんな問題が出てくると思う。
杉村委員：C ラーニングなどを使って就職や進学の提出書類の提出期限の情報を生徒だけでなく、保護者の方にも情報を流していただけたらなと思う。
室伏：出願の時の話かと思いますが、本人がしっかり調べて余裕を担任に持って来るということが理想である。心配なところは担任が気を回して指導している。提出期限や提出書類は生徒によって違うので、保護者の方まで担任の先生にお願いするのは難しい。
髙橋委員長：私の仕事柄この時期にくるのが上部の学校へ進学する時の授業料にあたるものは学生支援機構からの奨学金で賄えるが、入るまでの支度準備金が足りないという相談があるが、直前に相談に来て、間に合わないことがある。世帯により状況が違うので、12 月ぐらいから相談があれば選択肢が広がる場合がある。無利子と利子の奨学金があるので、周知していただきたい。
室伏：裾野高校は 3 年に入ってから例年は PTA 総会の時の保護者説明会のときに奨学金の利子・無利子の話を生徒・保護者にしていたが、本年度から先日二年生と一年生に対しても奨学金のファイナンシャルアドバイザーに来ていただいて講演を行った。お話の入学金の前の段階に必要なお金の準備は保護者の方もそこまで考えていない場合もあったようなので、事前に必要なお金を準備するよう担任との面談の中にも声を掛けている。
髙橋委員長：そういう風に言ってくださっているというのは、いいのかなぁと思う。

PTA総会をズームで開催しているのか。
川口：規約に、集まって開催することになっている。規約を改正するには、二年ぐらい掛かるので毎年話題には出るが、ズームでやってない状況です。小中学校ではだいぶPTA総会をズームで実施していたり、書面決済も増えてきているようで意見としては出るが、本校では皆さんに集まってもらって実施している。
高橋委員長：わかりました。そういう方向、可能性はある。話は出ているということですね。今の時代、会わなくても行かなくても実施できる時代になってる。20パーセントという率は決して高くはない。今後は十分考え、どこかで提起しなきゃいけないのかなと私は考えるので、質問した。
それから一年生のところで防災講話を実施しているということですが、どのような内容で、どのような講師か教えていただきたい。
川口：講師は、毎年県に依頼し、東部事務所から講師を派遣していただいている。今年は地震対策、富士山の噴火などの話をして頂いた。
高橋委員長：災害イコール地震となるが、この辺は水害が起きている。防災といってもいろいろあると思いますが、そういうこともあればなと思います。
川口：例年年２回防災訓練を三学年揃っておこなっている。水害は対象に入っておらず、火災とか地震関係を中心に避難訓練をして講話をしていただいている。また、視野を広く持って来年度以降考えたいです。
高橋委員長：私のイメージにあったのは、校舎の中、意外にゴミがない印象があったので、トイレを閉鎖したというのが気になった。
野村：使いかたが悪かったので、一定期間ここは使えないよということでやった。呼び掛ければ応え、子供たち努力しております。気を遣って使っている。
高橋委員長：防災で被災地ではトイレがものすごく重要になる。当たり前のようにトイレを使うが、被災地では大変であることを何かの機会に言って欲しい。トイレが気になったので質問した。
野村：報告をまとめた時はたまたま、また使い方が悪くて書いたが、本当に意識をする子が増えてきたなっていうのと掃除を一生懸命やってくれている。保健相談課の方でも管理している。今後もマナーも含めて継続中である。
山本委員：退学者数はどうなっているのか。
塩谷：退学者は３名。
校長：昨年度は今の三年生が10人進路変更している。
山本委員：何か働きかけはあったか。
塩谷：特にない。学年の特色というか、その子達の雰囲気等はあるが、今年の卒業生は多数の子が一・二年時に進路変更とか退学した子が居た。
山本委員：総合学科の選択科目があったが、組み合わせを変えたとかしていないか。
校長：それは全く無い。同じようにやっている。

(2)　　学校自己評価の報告について

各分掌課長からの説明を踏まえ、副校長から学校の取組目標、成果目標について説明がなされた。

質疑

志田委員：地域人材の活用が146件とあるが何か。

大石副校長；市役所の方々の延べ数、2年生のインターンシップなどである。

志田委員：マスコミへの情報提供が増えて良かった。多くの活動にボランティア部が参加してもらった。

４　諸連絡

副校長より案内：３月11日（火）裾野高校探究発表会「裾高カップ」裾野市民文化センターの多目的ホールで開催される。

髙橋会長より案内：裾野市社会福祉協議会より災害ボランティアでの本校生徒の活動について報告があった。来年度は地域福祉教育について取り組む予定である。

志田委員より課題提案：新聞記事に掲載された北駿の子どもの減少と高校4校の再編協議について

５　閉会